

学校教育審議会高校訪問アンケートでの意見（概要）

平成28年8月24日
高 校 教 育 課

1 訪問校について

【長沼高校】

- 長時間の通学にもかかわらず、長期欠席も少なく、中高教員の交流、卒業生や地域の人々との協力による「ねぶた」事業の実施など、教科書による教育では得られない「生き抜く力」や「社会性の涵養」が進められていると思う。
- 「小学校、中学校では学校に通うことが苦痛だったり、できなかった子も、ここで初めて学校に通うことの楽しさを味わい、学校での居場所を見つけ、高校生活を終えて卒業していく。」という話を聞き、これこそ生徒達に必要とされ、存続していく意義のある高校だと思った。

【郡山商業高校】

- 珠算、バスケットボール等、全国レベルの活躍が素晴らしい。
- 卒業後に学んだことが即、生かされるだけに、生徒の授業を受ける態度も真剣で、その様子が深く心に残った。

【橘高校】

- 校舎がスペースにゆとりのある作りとなっている。
- 将来の夢の実現のため、教職員も生徒もよく努力している。
- 生徒の目に生き生きとした輝きはやや少なく、塾プラス学校という生徒も多い中での学校に対する生徒の満足度が気になった。

【四倉高校】

- 普通科だが、卒業後の進路状況を考えると現状の学科でよいのか疑問。
- 震災時に地域の避難所になる等、役割は大きいと思う。地域コミュニティーをちゃんとやっているのが素晴らしい。
- 教室を見て生徒たちが頑張っている姿を想像することができた。
- 生徒数が減っていく環境の中で、学校設備の管理等の苦労を感じた。

【ふたば未来学園高校】

- 周囲の期待が大きすぎて何もかもを取り込み過ぎていないか心配。
- 教室、カリキュラムに独自性があるが実効的であるが広報が足りないと思った。
- 明るい希望、夢のある学校であると感じた。
- 新しい教育に取り組む先生方の苦労を思うと感動する。

【田島高校】

- 生徒数が少ないので、先生の指導が行き届き、生徒達との交流も図ることが出来そうで、信頼関係が築けそうである。

【会津学鳳高校】

- 生徒の進路が就職、専門学校から難関大学まで多種にわたっていて、先生方の苦労がしのばれた。
- 様々な考え方の生徒が集まるので、活気があり、お互いに刺激しながら自分を高めていける環境にあると思った。

2 高校訪問で感じたこと

【「学校規模、学校・学科の配置」について】

- 都市部の学校の生徒の定数については見直していった方がいい。
- 都市部のトップ校での教育を少数精鋭で行い、教育の充実を図る必要がある。
- 通学時間や居住施設などを踏まえた総合的な教育システムの在り方についての検討もまた必要。
- 中山間地域にかかわらず、小規模校のニーズは存在するのではないか。
- 各学科の特色を生かし、生徒の個性や能力を伸ばし、新しい時代を切り開く人材の育成に取り組むことが大事になると思う。

【「中山間地域における小規模校の今後の在り方」について】

- 中山間地域の小規模校には、学校と地域の連携を強化することや、生徒に良好な教育環境を与えることが大事になると思った。
- 中山間地域の学校では、少人数ながら目の行き届いた指導が出来、地域との連携も図りながら学習や学習以外の教育も充実させることが出来る。
- 寄宿所で友だちとともに生活をしながら、学校に通うことも一つの教育手法として、県民理解を形成して取り組む必要がある。
- 地域と連携しながら、一定の配慮のもとに、一人の社会人として育つ過程を過ごす施設について検討する必要がある。
- 少人数の良さを越えて少ない人数に対して公的な教育をするには、中等教育として他の生徒との教育に関する平等性について議論しなければならない。
- 中規模校、小規模校の中でも、本当に最後の受け皿としてその高校を必要としている生徒がいる限り、存続の意義は大いにある。
- 小規模校の存続が議題になるならば、データ上の議論だけでなく、視察などにより一校一校ごとの現状把握をしっかりと行って議論していきたい。

【「総合学科や中高一貫教育校」について】

- 総合学科や中高一貫教育校の場合、学校ごとにスポーツや学力向上などテーマを決めて募集をかけた方が、生徒の向上心に寄与すると思う。
- 総合学科のめざす方向、実際生徒にとってためになっているのか。
- 中高一貫教育のメリットデメリットをよく研究し、福島県においてどうなのか考えていくことが大切だと思った。
- ふたば未来学園高校のこれからの動向が福島県の教育の在り方につながる。

【その他】

- スキルも大切であるが、個々にどんな可能性があるのか、他人とどう向き合っていけるのか、人間力を学ばせてあげたい。
- 今後の少子化や格差の問題についての対応策が必要になってくると思った。

学校教育審議会（第1回）及び同部会（第1回）における主な意見

平成28年8月24日
高 校 教 育 課

- : 学校審議会（第1回） 平成28年5月26日
- : 学校教育審議会部会（第1回） 平成28年7月21日

1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む本県教育の在り方について

- **震災は大変な経験**であった。地域を愛する心、思いやりなど、隠れていたものが出てきたと言えるのではないか。
- 震災を経験せざるを得なかった半面、違った経験ができたという解釈も可能。
- 時代の要請に応えた福島型の教育をしっかりと作っていく。
- 20年後30年後の生きる力とは何かをこれまでの実践から導き出していかなければならない。
- **生き抜いていく力、グローバルな視点**をもっと盛り込んでほしい。
- 教育と産業・科学との関係を深めることも重要。
- 義務教育との連携や高大接続等も視野に入れていく必要がある。
- **地域も巻き込んだ教育**が大事。
- 将来は福島県で**実を結ぶ**という思いをはぐくむ教育が必要。
- 高校卒業後、やがて**本県に戻ってくるための仕掛けづくり**が重要。
- 離職率が高い。働く意義についてしっかり教えることが重要。
- 不安を受け入れて学ぶという観点を生かしてほしい。
- **生き抜く力**といっても地域、学校により求められているものは異なる。
- **生き抜く力**を身につけさせるために本県ではどうするのか、が論点である。
- 中学校は中学校の教育、高校は高校の教育と分けていたのでは一貫性がない。キャリア教育においても小中高の連携は重要である。
- **仕掛けづくり**については、福島県に戻って貢献できる仕事が必要。**魅力があれば戻ってくる**。中学校、高校、大学それぞれに応じた提案が必要である。
- 子どもたちをどのようにして福島に戻すのかという視点が重要である。
- **地域を巻き込んで高校教育**を行う必要性は高い。

2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上について

- 福島でどのような力をつけさせるのかを審議するのがこの会である。
- 現行の高校教育はカリキュラムのルールに縛られすぎである。**生徒がやりたいことを利用した教育**も必要で、地域の良さや**夢をかなえる**ことも大切。
- **特色のあるカリキュラムによる教育**を実践していく必要がある。
- 生徒数が減少しても、学校に配置している教員数は減らさないでほしい。
- やる気のある若者への支援が重要。それを支える方策として杓子定期的に教員定数をとらえないことが重要。
- 経験豊富な校長先生たちに非常勤のような形でも現場に残って頂きたい。
- **教育の質の向上**、進路実現が第一である。東大、京大への進学希望者にも合格させることが使命である。そのあたりにもっとメスを入れてほしい。
- **職業系専門学科と総合学科において、イノベーション・コースト構想と絡めた産学連携**など、思い切ったことも必要。

- 3 魅力ある教育活動を推進するための学校規模、学校・学科の配置について
- 先を見据えた上で長いスパンで若い人たちを育てていける環境を作っていく必要がある。
 - 福島で高校教育を受けてよかったと思ってもらえる環境作りをすることが自分たちの役割。
 - **統合も都市部と中山間部を同じ基準で行っていいのか。**それぞれの規模・実情に合った基準を作るべきである。
 - 今後、8学級規模の進学校が存続できるとは考えられない。
 - 本県には3クラス程度の小規模校が多い。学校規模の適正化で4～8クラスに戻すというのは乱暴である。
 - **4～8学級が本当に適正なのか疑問**である。他県における人口動態等に応じた進学校の数や進学校の学級数などが資料としてあるとよい。
 - 2学級から1学級にする場合、中山間地域と都市部は分けて考えるべきである。
 - 同じ性質の学校の重複や通学が難しい学校など中規模校においても統合を進める必要がある。
 - ニーズとセットとなった学校でないと生徒集めに苦勞する。
 - **自分の居住エリアから出るといふ考えがないので、7つのエリアでやっていくしかない。**
- 4 過疎・中山間地域の教育環境の在り方
- **中山間地域の高校への魅力ある学科の設置**を考えること。
 - 都市部のトップ校の定数を減らすことは中山間地域の教育にも資することになる。思い切った新たな発想で行う必要がある。
 - 地域のいいところ、足りないところを知ってもらったうえで地域づくりに参画してほしい。
 - 地域の良さ、特徴等を学校と地域が一体となって教えていくことが大切。
 - 中山間地域の学校に寄宿舎を整備して、教育の機会を担保するというのもありだと思う。
 - **中山間地域の学校は1学級でも単独校とするべき**である。
 - 学校がなくなれば地域が寂れてしまう。それだけ地域に愛着もあるので統廃合の場合には生徒のメリットとデメリットをよく考えてほしい。
- 5 総合学科や中高一貫教育について
- これまでの改革の方針は国に合わせてきた傾向がある様に思う。双葉地区教育構想やふたば未来学園高等学校などの、福島ならではの視点も重要ではないか。
 - ふたば未来学園高等学校の開校など、新たな取り組みにも注目している。
 - **生き抜く力を育むためには、中高一貫校で6年間行う**ことも選択肢の一つである。
 - 中高一貫教育は魅力だが、連携型の教育的効果はどうか。
- 6 その他
- 一次まとめ、二次まとめに基づく取組についての評価が必要。
 - 県立高等学校改革計画についての反省が必要。
 - これまでの改革計画の評価や、**総合学科の学習状況など**も含めてこれまでの総括が必要。
 - トータルとしての県教委の意見をはじめに提示してもらえれば議論しやすい。
 - 少子化についての県全体の概要は理解できたが、もう少し各地域の特性に応じた現状を説明していただくとわかりやすい。
 - 生徒自身の声、保護者の声、教員の意識などに関する調査が必要。
 - 選挙権年齢が18歳に引き下げられ、高校における主権者教育が重要。
 - 情報発信が重要である。

県内各地域の特性等について（概要）

平成28年8月24日
高校教育課

I 7つの生活圏と多様な地域性

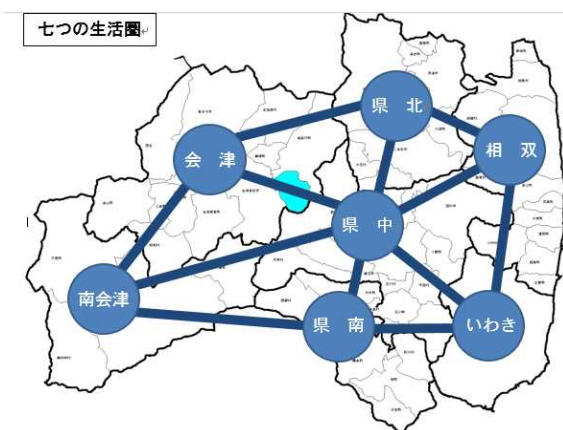
本県の面積は、北海道、岩手県に次いで全国3位の広さであり、浜通り地方、中通り地方及び会津地方の3つに区分されます。

また、南北方向と東西方向の連携軸の結節上に、特色ある7つの生活圏が形成され、それぞれの軸に都市が分散した、多極分散型の県土構造となっています。

（図1）

そのため、広い地域にわたって人口が分散する状況の中で、地域ごとに高等学校が設立されたことから、他県に比べて小規模校が多い傾向にあります。

このような状況の中、それぞれの高等学校では、地域と深い関わりを保ちながら、その期待に応えられるよう、地域とともにある教育の推進に努めてきました。



【図1 本県における7つの生活圏】

II 県内各地域の特性を知る手掛かりとして、以下の3項目について取り上げます。

1 産業別特化係数（平成25年度）

- ・特化係数とは、地域における経済活動別生産額の構成比を県の構成比で除したもの（ $\text{県} = 1.00$ ）です。例えば県北地域における製造業の経済活動別生産額の構成比は22.2%、県は22.6%ですので、 $22.2 \div 22.6 = 0.98$ となります。
- ・特化係数が「1」を上回る産業は県平均を上回るということになり、地域の産業構造の特徴を伺うことができます。

（出典：「福島県市町村民経済計算年報 平成25年度版」（平成28年3月30日公表））

2 地区における学校規模の特徴（平成28年度）

- ・各地区における学校規模や学校配置の主な特徴を取り上げます。
- ・県立高等学校改革第2次まとめ以降に統合した学校や、近年ニーズが高まっている特別支援学校高等部の配置等についても取り上げます。

3 中学校卒業見込み者数

- ・中学校卒業見込み者数は、平成22年度から27年度までは実数、平成28年度から36年度までは学校基本調査（平成27年5月1日現在）、平成37年度から40年度までは福島県現住人口調査（平成27年4月1日現在）に基づいています。

4 各地域の状況

(1) 県北地域

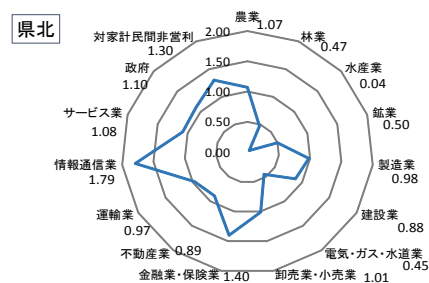


図2 県北地区の特化係数

【特徴的な産業】(図2)

- ・「情報通信業」1.79
- ・「金融業・保険業」1.40など

【学校規模の特徴】(図3)

- ・県平均と比べ、7学級以上の学校の割合が大きく、小規模校は少ない。

【中学校卒業見込者数】(図4)

- ・28年度に比べ40年度までに約1,600名減少。

学校の規模 (1学年あたりの学級数)	小規模 (1~3)	中規模 (4~6)	大規模 (7~)	地区計	学科別学級数(28年度募集定員)			
					普通科系	職業学科	総合学科	学級数計
県北地区の学校数	3	8	5	16	48	29	7	84
地区内の割合(%)	18.8%	50.0%	31.3%		57.1%	34.5%	8.3%	
県全体の割合(%)	41.6%	38.2%	20.2%		56.3%	34.2%	9.4%	
(私立高校)	(0)	(1)	(4)		(32)	(12)	(0)	

図3 学校規模別学校数及び学科別学級数(県北地区)

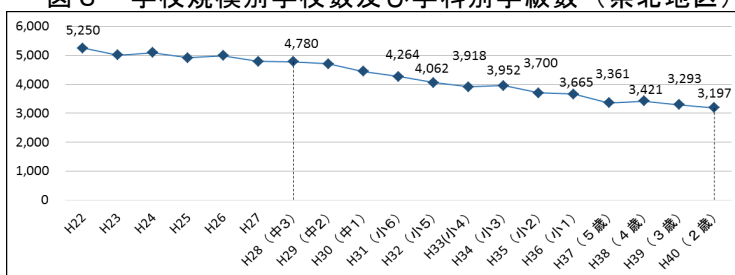


図4 中学校卒業見込者数の推移(県北地区)

(2) 県中地区

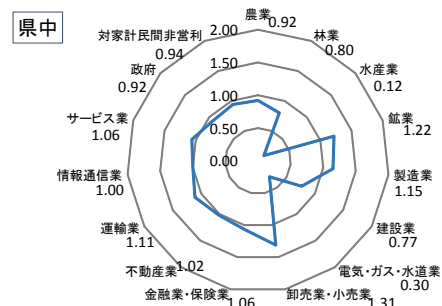


図5 県中地区の特化係数

【特徴的な産業】(図5)

- ・「卸売業・小売業」1.31
- ・「製造業」1.15など

【学校規模の特徴】(図6)

- ・県平均と比べ、都市部の学校規模が大きく、小規模校の割合は低い。

【中学校卒業見込者数】(図7)

- ・28年度に比べ40年度までに約1,400名減少。

学校の規模 (1学年あたりの学級数)	小規模 (1~3)	中規模 (4~6)	大規模 (7~)	地区計	学科別学級数(28年度募集定員)			
					普通科系	職業学科	総合学科	学級数計
県中地区の学校数	7	5	7	19	63	28	3	94
地区内の割合(%)	36.8%	26.3%	36.8%		67.0%	29.8%	3.2%	
県全体の割合(%)	41.6%	38.2%	20.2%		56.3%	34.2%	9.4%	
(私立高校)	(0)	(0)	(5)		(41)	(12)	(0)	

図6 学校規模別学校数及び学科別学級数(県中地区)

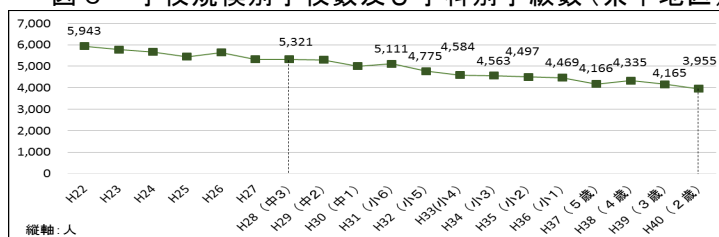


図7 中学校卒業見込者数の推移(県中地区)

(3) 県南地区

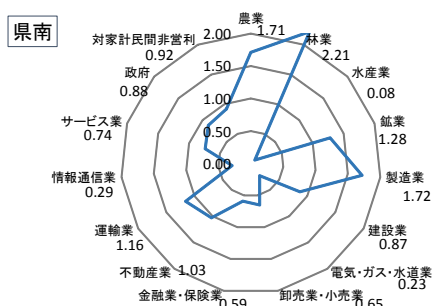


図8 県南地区の特化係数

【特徴的な産業】(図8)

- ・「林業」2.21
- ・「製造業」1.72
- ・「農業」1.71など

【学校規模の特徴】(図9)

- ・県平均と比べ、都市部大規模校が少ない。
- ・統合を進め、学校規模の適正化を図ってきた。「修明」はH21年に統合。

【中学校卒業見込者数】(図10)

- ・28年度に比べ40年度までに約400名減少。

学校の規模 (1学年あたりの学級数)	小規模 (1~3)	中規模 (4~6)	大規模 (7~)	地区計	学科別学級数(28年度募集定員)			
					普通科系	職業学科	総合学科	学級数計
県南地区の学校数	2	4	1	7	14	12	5	31
地区内の割合(%)	28.6%	57.1%	14.3%		45.2%	38.7%	16.1%	
県全体の割合(%)	41.6%	38.2%	20.2%		56.3%	34.2%	9.4%	

図9 学校規模別学校数及び学科別学級数(県南地区)

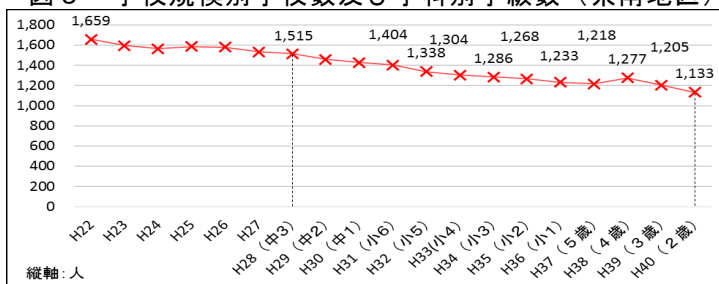


図10 中学校卒業見込者数の推移(県南地区)

(4) 会津地区(会津地域)

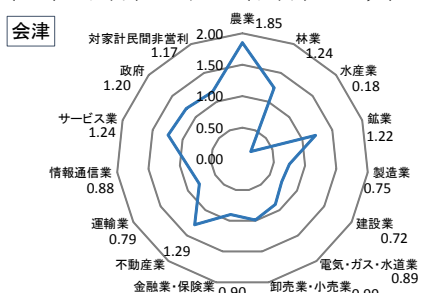


図11 会津地域の特化係数

【特徴的な産業】(図11)

- ・「農業」1.85
- ・「林業」1.24
- ・「鉱業」1.22など

【学校規模の特徴】(図12)

- ・県平均と比べ、都市部大規模校が少なく、学校の小規模化が著しい。
- ・統合を進め、学校規模の適正化を図ってきた。「喜多方桐桜」はH22年に統合。

【中学校卒業見込者数】(図13)

- ・28年度に比べ40年度までに約700名減少。

学校の規模 (1学年あたりの学級数)	小規模 (1~3)	中規模 (4~6)	大規模 (7~)	地区計	学科別学級数(28年度募集定員)			
					普通科系	職業学科	総合学科	学級数計
会津地域の学校数	8	6	1	15	30	22	6	58
地区内の割合(%)	53.3%	40.0%	6.7%		51.7%	37.9%	10.3%	
県全体の割合(%)	41.6%	38.2%	20.2%		56.3%	34.2%	9.4%	
(私立高校)	(0)	(2)	(1)		(10)	(6)	(0)	

図12 学校規模別学校数及び学科別学級数(会津地域)

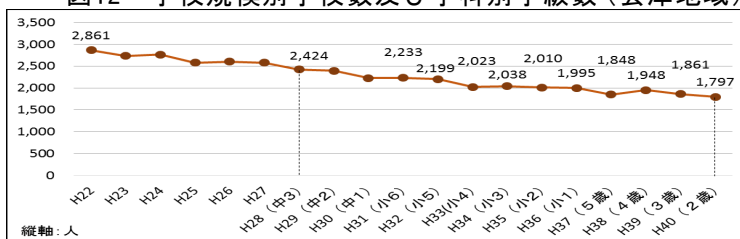


図13 中学校卒業見込者数の推移(会津地域)

(5) 会津地区 (南会津地域)

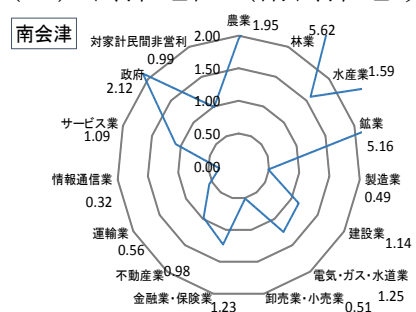


図14 南会津地域の特化係数

【特徴的な産業】(図14)

- ・「林業」5.62
- ・「鉱業」5.16
- ・「水産業」1.59など

【学校規模の特徴】(図15)

- ・3校すべてが小規模校。

【中学校卒業見込者数】(図16)

- ・28年度に比べ40年度までに約80名減少。

学校の規模 (1学年あたりの学級数)	小規模 (1~3)	中規模 (4~6)	大規模 (7~)	地区計	学科別学級数(28年度募集定員)			
					普通科系	職業学科	総合学科	学級数計
南会津地域の学校数	3	0	0	3	6	0	0	6
地区内の割合(%)	100.0%	0.0%	0.0%		100.0%	0.0%	0.0%	
県全体の割合(%)	41.6%	38.2%	20.2%		56.3%	34.2%	9.4%	

図15 学校規模別学校数及び学科別学級数(南会津地域)

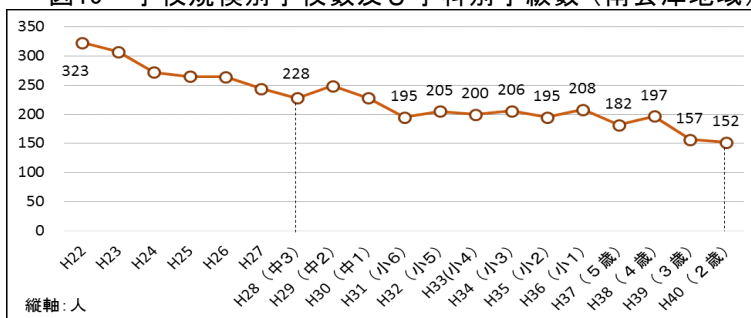


図16 中学校卒業見込者数の推移(南会津地域)

(6) いわき地区

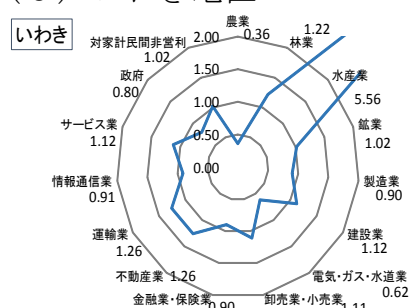


図17 いわき地区の特化係数

【特徴的な産業】(図17)

- ・「水産業」5.56
- ・「運輸業」1.26
- ・「林業」1.22
- ・「建設業」1.12など

【学校規模の特徴】(図18)

- ・県平均と比べ、大規模校がやや多い。
- ・都市部周辺の学校が小規模化しており、3学級以下の5校すべてが2学級規模。

【中学校卒業見込者数】(図19)

- ・28年度に比べ40年度までに約1,000名減少。

学校の規模 (1学年あたりの学級数)	小規模 (1~3)	中規模 (4~6)	大規模 (7~)	地区計	学科別学級数(28年度募集定員)			
					普通科系	職業学科	総合学科	学級数計
いわき地区の学校数	5	6	4	15	36	27	6	69
地区内の割合(%)	33.3%	40.0%	26.7%		52.2%	39.1%	8.7%	
県全体の割合(%)	41.6%	38.2%	20.2%		56.3%	34.2%	9.4%	
(私立高校)	(2)	(2)	(0)		(13)	(0)	(0)	

図18 学校規模別学校数及び学科別学級数(いわき地区)

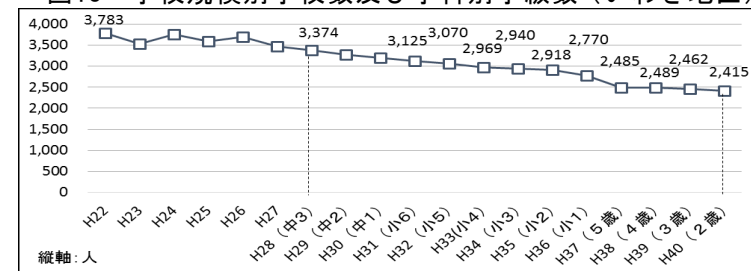


図19 中学校卒業見込者数の推移(いわき地区)

(7) 相双地区 (相馬地域)

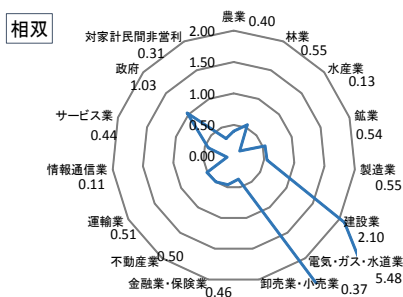


図20 相双地区の特化係数

【特徴的な産業】(図20)

- ・「電気・ガス・水道業」5.48
- ・「建設業」2.10

【学校規模の特徴】(図21)

- ・統合を進め、学校規模の適正化を図ってきた。「小高産業技術」はH29統合予定。
- ・3学級以下が地区の80%。

【中学校卒業見込者数】(図22)

- ・28年度に比べ40年度までに約240名減少。

学校の規模 (1学年あたりの学級数)	小規模 (1~3)	中規模 (4~6)	大規模 (7~)	地区計	学科別学級数(28年度募集定員)			
					普通科系	職業学科	総合学科	学級数計
相馬地域の学校数	4	4	0	8	12	9	4	25
地区内の割合(%)	50.0%	50.0%	0.0%		48.0%	36.0%	16.0%	
県全体の割合(%)	41.6%	38.2%	20.2%		56.3%	34.2%	9.4%	

図21 学校規模別学校数及び学科別学級数 (相馬地域)

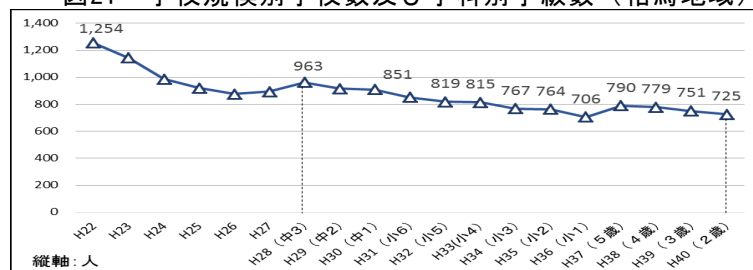


図22 中学校卒業見込者数の推移 (相馬地域)

(8) 相双地区 (双葉地域)

【学校規模の特徴】(図23)

- ・双葉郡5校がH27より募集を停止し、ふたば未来学園が同年開校。

【中学校卒業見込者数】(図24)

- ・28年度に比べ、37年度までに約65名減少。

現住人口調査によれば、37年度に比べ、40年度までに537名から485名になると想定。

学校の規模 (1学年あたりの学級数)	小規模 (1~3)	中規模 (4~6)	大規模 (7~)	地区計	学科別学級数(28年度募集定員)			
					普通科系	職業学科	総合学科	学級数計
双葉地域の学校数	5	1	0	6	0	0	4	4
地区内の割合(%)	83.3%	16.7%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	
県全体の割合(%)	41.6%	38.2%	20.2%		56.3%	34.2%	9.4%	

図23 学校規模別学校数及び学科別学級数 (双葉地区)

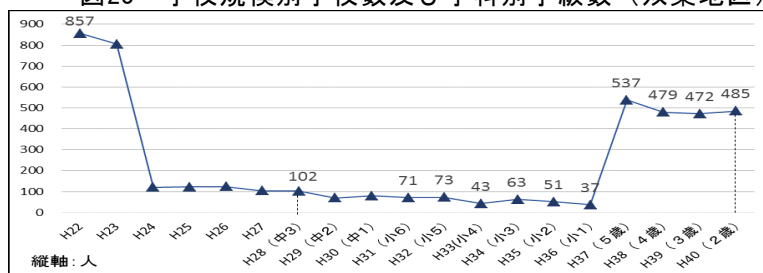


図24 中学校卒業見込者数の推移 (双葉地域)

進路に関する意識調査について（概要版）

平成28年8月24日
 高校教育課

1 調査の概要について

- 県内7地区に在籍する中学校2年生とその保護者で、県内各地区の在籍生徒数の割合とほぼ同じになるように抽出。
- 実施時期は本年6月。回収率は中学生95.5%、保護者82.0%。

2 調査結果のまとめ

(1) 中学校卒業後の進路（図1～図4）

- 高校への進学希望は中学生・保護者とも約96%であり、そのうち約45%は大学への進学を希望している。

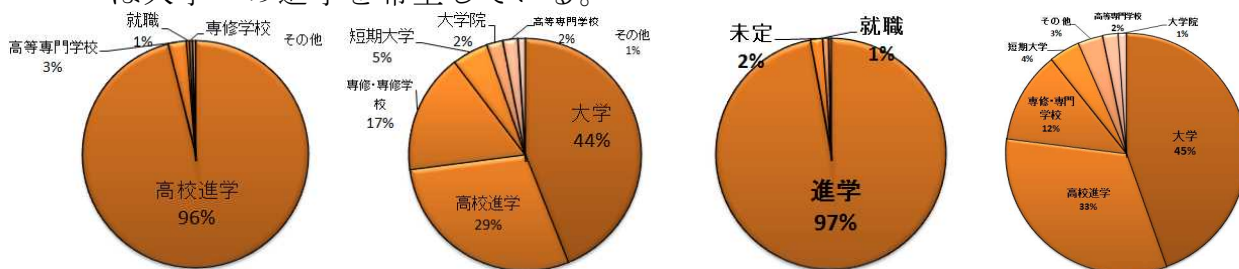


図1 中学生

図2 中学生

図3 保護者

図4 保護者

(2) 将来の生活場所等（図5～図8）

- 福島で暮らしたい（生徒） 25.2% 理由「地元の生活に慣れている」「両親や祖父母のもとで生活したい」
- 福島で暮らしてほしい（保護者） 37.0% 理由「一緒に生活したい」「地元貢献してほしい」

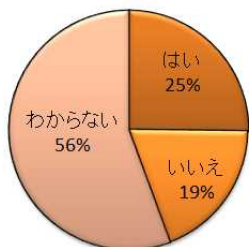


図5 中学生

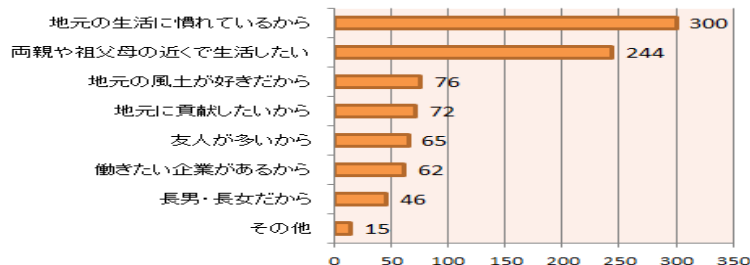


図6 中学生

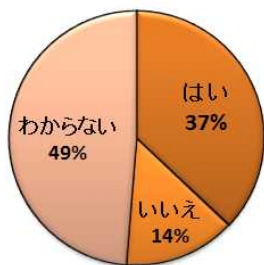


図7 保護者

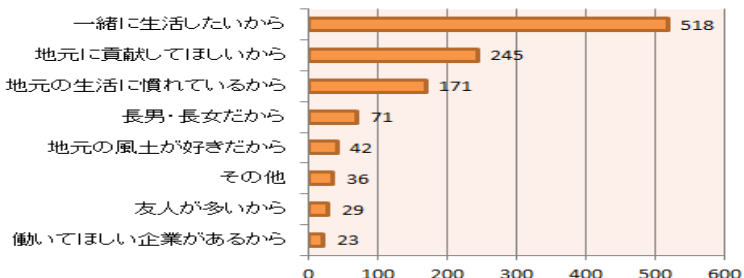


図8 保護者

※ 福島で暮らしたくない・暮らしてほしい理由（上位2項目）
 中学生 「都会のほうが便利」「就きたい職業がない」
 保護者 「子供の意思を尊重」「より広い世界で活躍」

(3) 高校を選択する際に重要だと思う点・重視する点 (図9～図10)

- 中学生 「学習内容」「進路状況」「部活動や委員会活動」の順
- 保護者 「進路状況」「学習内容」「通学時間」の順。

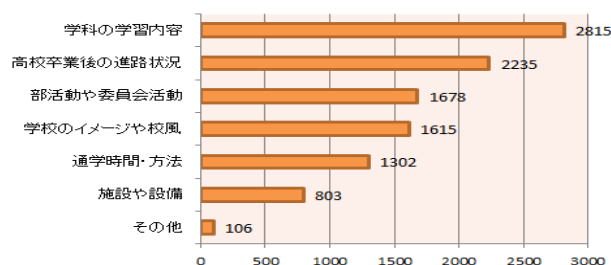


図9 中学生

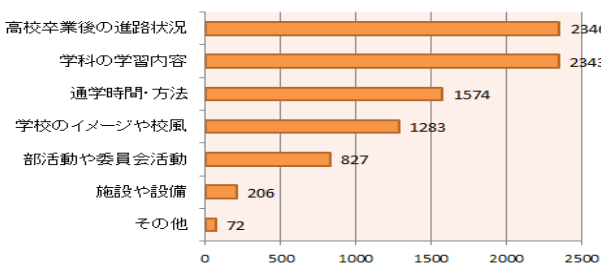


図10 保護者

(4) 公私進学希望 (図11～図12)

- 県立高校希望 中学生 69.0%
保護者 83.8%
- 私立高校希望 中学生 6.2%
保護者 1.4%

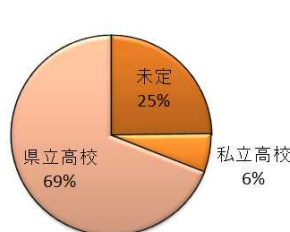


図11 中学生



図12 保護者

(5) 進学したい学科・進学させたい学科

(図13～図14)

- 中学生、保護者とも第1希望は7割以上が普通科を希望。総合学科は第2希望で10ポイント以上増える。
- 第1希望と第2希望をまとめると、
中学生 「普通科 69.2%」「職業学科 20.3%」「総合学科 10.5%」
保護者 「普通科 63.1%」「職業学科 19.8%」「総合学科 17.0%」

※学びたい(学ばせたい)その他の学科(多い順)

- 中学生
「ITシステム」「自然環境」「教育」「医療福祉」
- 保護者
「ITシステム」「医療福祉」「教育」「自然環境」

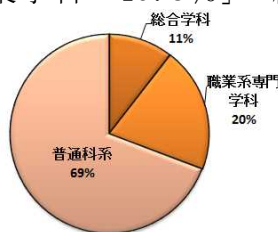


図13 中学生

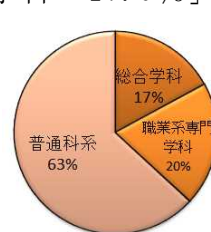


図14 保護者

(6) 中高一貫教育校について(保護者のみ)(図15～図17)

- 地区に中高一貫教育校が必要 40.9%
- 必要な形態 中等教育学校 44.0% 併設型 25.3%、連携型 20.5%
- 中高一貫教育校が必要と回答した保護者が重視すること
「豊かな人間性・社会性」 43.7% 「確かな学力」 32.0%

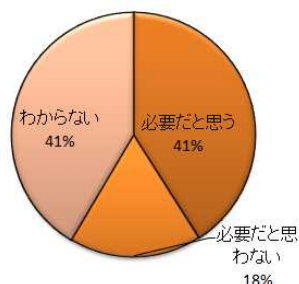


図15 中高一貫教育校の必要性

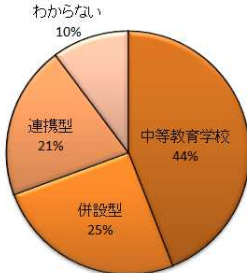


図16 中高一貫教育校の形態

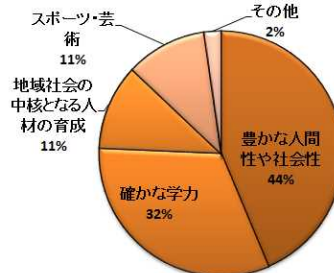


図17 中高一貫教育校で重視すること

県立高等学校改革の総括について（概要）

平成 28 年 8 月 24 日
高 校 教 育 課

1 一次まとめについて

取組や現状

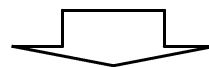
- ・ 普通科におけるコース制の導入
- ・ 昼間主、夜間主併置の定時制高校と県内唯一の通信制高校の配置
- ・ 1 学年 8 学級以下への適正化
- ・ 男女共学化の実施
- ・ 中高一貫教育校の設置

成果

- ・ 男女共学化により学習活動や生徒会活動が活性化。大学進学実績も向上した。
- ・ 地区ごとに特色ある学校を選択可能。

課題

- ・ 1 学年 3 学級以下の小規模校の増加
- ・ 中高一貫教育における特色ある教育の実践
- ・ 教員研修の充実



課題に対する県の考え方

- ・ 学校規模の適正化
- ・ 中高一貫教育校における 6 年間を見通した地域との連携や学習内容の先取り
- ・ 校内研修の充実や多様な研修の実施

2 二次まとめについて

I 学校の適正規模、適正配置、統廃合について

取組や現状

- ・ 1 学年 4 ～ 8 学級を適正規模とし、平成 22 年度に全学年で実施。
- ・ 総合学科は県内各地区に 8 校配置
- ・ 統合は棚倉地区、喜多方地区、小高地区で実施。
- ・ 小規模校の分校化は実施していない。
- ・ 分校では、富岡高校川内校が平成 21 年度に生徒募集停止。

成果

- ・ 多様な高校を配置し、どの地区でも希望する学校を選択できる。

課題

- ・ 1 学年 3 学級以下の小規模校増加
- ・ 各学科配置校における教育の充実や地区の配置バランス
- ・ 再編整備の計画的な推進
- ・ 小規模校の分校化や分校の生徒募集停止についての方向性
- ・ 定時制・通信制高校の配置



課題に対する県の考え方

- ・ 学校規模の適正化の推進
- ・ 小規模校や分校の今後の方向性の検討
- ・ 多様な学習ニーズに応える配置

Ⅱ 学科の適正配置について

取組や現状

- ・普通科系、職業系、総合学科の募集定員の比を概ね6：3：1に。
- ・就職者の県内留保率や進学状況に配慮してバランスよく配置。
- ・時代のニーズに対応した学科改編

成果

- ・各学科を地区ごとに配置したことで、基礎的・基本的学習の上に専門的学習の科目が選択可能
- ・棚倉地区、喜多方地区の統合高校において総合選択制を取り入れたことで、学科の枠を超えた科目が選択可能

課題

- ・今後の適正な学科配置の在り方や募集定員の比率
- ・同一地区内での学科重複の解消
- ・進路状況で割合の多い就職希望者に対する指導内容の充実

課題に対する県の考え方

- ・生徒の志願動向や地域の産業立地等を考慮して学校・学科を配置
- ・生徒の志願動向や他県の状況を踏まえて募集定員の比率を検討
- ・就職先で役立つ実践的な指導のさらなる充実に努める。

Ⅲ 総合学科について

取組や現状

- ・学級数減により、多様な系列を開設することが難しくなっている高校もある。
- ・上級学校進学者の割合が高く、就職希望者も少なくない。

成果

- ・平成15年度までにどの地区でも総合学科が選択可能となった。

課題

- ・総合学科の規模の適正化や多様な進路希望を持つ生徒への対応

課題に対する県の考え方

- ・再編整備も含めた総合学科の配置の在り方の検討
- ・多様な進路希望を実現させるよう、個に応じた指導に努める。

Ⅳ 中高一貫教育について

取組や現状

- ・連携型は埴地区、南会津地区、相馬地区、双葉地区に配置。
- ・併設型は会津学鳳高校に配置。
- ・平成22年度までが前期実施計画。

成果

- ・併設型である会津学鳳高校では進路希望に対応した系列の指導により、4年制大学への進学率が増加。
- ・連携型では、相馬地区、南会津地区で連携先の中学校から多くの生徒が入学する傾向がある。

課題

- ・新たな中高一貫教育実施計画策定に向けた検討

課題に対する県の考え方

- ・連携型、併設型ともに特色ある教育活動の実践に引き続き取り組む。
- ・新たな中高一貫教育実施計画策定に向けた入学者選抜の在り方や進路状況等について検証を進める。

第1回学教審と部会におけるご意見をもとにした論点整理

生き抜く力

- 基礎的な知識や技能、学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力
- 課題探究能力
- 協働できる能力 等

- 震災を経験したことにより芽生えた、たくましさ、思いやりの気持ち
- 福島の良さの気づきと郷土愛の深まり

福島で身に付けさせたい生き抜く力

子ども達が福島での教育により、夢を叶える、実を結ぶ

子ども達がやりたいことを育み生かす

福島ならではの教育プログラムの作成

未来や復興を見据えた、福島ならではの、生き抜く力を育む教育プログラムとは？

地域を巻き込んだ学校の魅力化

地域に支えられ、地域に貢献する学校の在り方とは？

生徒がやりたいことを育み生かす教育①

- 課題を見つけ主体的に探究する力の育成
- 特色のあるカリキュラムによる教育実践
- 職業系専門学科や総合学科における産学連携



- 深い学び
- 対話的な学び
- 主体的な学び



進路
実現

生き抜く力を育む本県教育の在り方

- ◎豊かな心の育成
 - 震災の経験を生かすには？
- ◎グローバルな視点の育成
 - そのために必要なことは？

多様な学習内容の確保・ 教育の質の向上

- ◎学力や体力の向上
 - 教育の質を向上するには？
- ◎地域の特色を生かした教育
 - どのような例があるか？



- ☆ アクティブ・ラーニングの先取り
- ☆ 新しい学習指導要領への対応

生徒がやりたいことを育み生かす教育②

学校規模、学校学科の配置

◎学ぶ意欲を引き出す環境

- ・現在の適正規模は4～8学級 ⇒ 今後の適正規模は？
- ・適正規模を下回る学校の統合の在り方は？
- ・7つの居住エリアで学校を適正に配置するためには？

過疎・中山間地域の教育環境

◎過疎・中山間地域の学習機会の確保

- ・小規模校の今後の在り方は？
- ・過疎・中山間地域の高校における魅力ある教育内容とは？

◎地域とともにある学校づくり

- ・地域の良さ、特徴等を学校と地域が一体となって教えていく取組とは？
- ・地域を巻き込んだ教育とは？

総合学科・中高一貫教育

◎総合学科や中高一貫教育校

- ・総合学科における多様な学習ニーズに対応するには？
- ・学習内容の先取りなど中高一貫教育校に求められることは？